



溪仁会グループCSRレポート2009

私たちの30年

CORPORATE SOCIAL RESPONSIBILITY REPORT

地域とともに
保健・医療・福祉の未来を
見つめて。



K 溪仁会グループ
医療法人 溪仁会 社会福祉法人 溪仁会

渓仁会グループの事業理念

事業理念

安心感と満足の提供 Offering a Sense of Security and Satisfaction

信頼の確立 Building the Foundations of Trust

プロフェッショナル・マインドの追求 Attaining a Professional Mind

変革の精神 Developing the Spirit of Change

ミッション

保健・医療・福祉の各サービスをシームレスに提供し、
地域住民の生涯に亘るニーズに応え支援を行う。

サービス 憲章と 行動基準

私たちは、質が高く効率的なサービスを提供するため、
グループの総力を挙げ(グループ連携)、地域の関係機関との連携を密にし(地域連携)、
他の関連事業との提携を展開し(業務提携)、患者様・ご利用者様との協同活動を通じて、
満足度の高い保健・医療・福祉サービスを目指します。

そのために…

1. 私たちは、患者様やご利用者様にとって最高の満足度を追求します。……………顧客満足
2. 私たちは、最高のサービス品質を追求します。……………品質管理
3. 私たちは、人権と倫理を尊重したサービスを提供します。……………人権尊重
4. 私たちは、地域社会の一員として遵法を徹底します。……………遵法精神
5. 私たちは、常に技術の向上と革新に努めます。……………技術変革
6. 私たちは、日々研鑽に励み、人格と知識の向上に努力します。……………教育研修
7. 私たちは、職種を超えたチーム活動に徹します。……………チームワーク
8. 私たちは、サービス提供に関わる情報を公開します。……………情報公開
9. 私たちは、各機関との地域連携を重視し地域に根ざすサービスを供給します。…地域重視
10. 私たちは、環境を保護するためにあらゆる配慮を尽くします。……………環境保護
11. 私たちは、お互いを尊重し、ゆとりある職場環境を追求します。……………職場環境

渓仁会グループ
CSRレポート2009
私たちの30年

CORPORATE
SOCIAL RESPONSIBILITY
REPORT



CONTENTS

04	渓仁会グループ 社会的責任30年の歩み
10	渓仁会グループの今～組織一覧
12	この道をひらく そこにあるプロフェッショナル・マインド
24	渓仁会グループの現在・過去・未来に寄せて 先輩からのメッセージ
26	わたしたちのCSR 医療法人渓仁会 手稲渓仁会病院
30	わたしたちのCSR 医療法人渓仁会 札幌西円山病院
34	わたしたちのCSR 医療法人渓仁会 定山渓病院
38	わたしたちのCSR 医療法人渓仁会 渓仁会円山クリニック
42	わたしたちのCSR 社会福祉法人渓仁会
46	ステークホルダー・ダイアログ2009 より良い関係をつくる 情報コミュニケーションを考える
50	環境報告 人に、環境に、やさしい経営をめざして
52	トップメッセージ 渓仁会グループ最高責任者 医療法人渓仁会 理事長 秋野 豊明
54	第三者意見

編集方針

このレポートは、渓仁会グループが果たすべきCSR（社会的責任）を明らかにし、その実現に向けた取り組みを報告しております。

2009年は当グループの創立30周年に当たることから、原点にある志を見つめ直し、さらなる未来へつなげることを目的に、「社会的責任30年の歩み」を巻頭企画といたしました。

また、当グループが取り組んでいる重要なテーマについて、職員の思いを通してわかりやすくお伝えしたいという願いから、職員にスポットを当てた企画を多く取り入れました。渓仁会グループを構成する一人ひとりの職員がどのような思いでそれぞれの仕事に取り組んでいるのか、その姿勢を中心に報告しております。

多くの皆さんにこのレポートをご覧いただき、当グループと社会との相互信頼、ステークホルダーの皆さんとのコミュニケーションを深めることができれば幸いです。

信頼性への配慮

CSR分野に詳しい有識の方々からいただいたご意見やアドバイスをもとに、公正な視点から情報公開しております。第三者意見としては、東京交通短期大学学長の田中宏司氏に所見を依頼いたしました。また、当グループのWebサイト上でも、同内容の情報を公開しております。

CSRレポート掲載URL ▶ <http://www.keijinkai.com>

報告対象範囲

2008年度（2008年4月～2009年3月）の活動を中心に、2007年度以前や2008年度以降の情報も記載しています。環境パフォーマンスデータの対象範囲については、渓仁会グループの中から環境保全上の重要度に応じて決めています。

30年のあゆみ

組織一覧

この道をひらく

わたしたちのCSR

ステークホルダーとの対話

環境報告

トップメッセージ

渓仁会グループ 社会的責任30年の歩み

30年
のあゆみ組織
一覧

この道をひらく

わたしたちのCSR

ステークホルダーとの対話

環境
報告

トップメッセージ

より良い保健・医療・福祉を提供するために。

変革を繰り返しながら、組織として永続していくために。

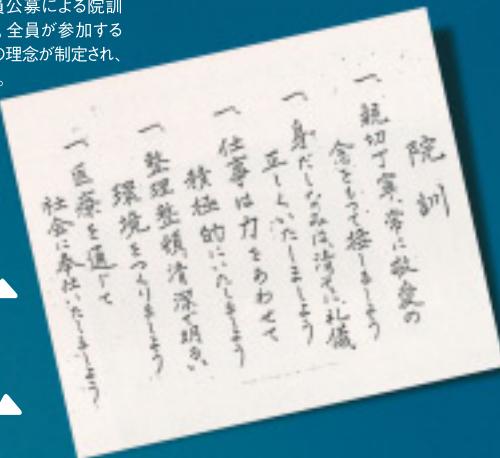
渓仁会グループはなにを思い、なにを実践してきたのだろうか。

その歴史を振り返る。

1978年6月着工。傾斜した地形の中、山を開いて建築。当時の道路は幌見峠に向かう細い山道で、雨が降ると泥道。周辺には民家もほとんどなかった。

日本一の老人病院をめざし、 62名が西円山病院に集う。

1979年10月、職員公募による院訓を制定すると発表。全員が参加することで西円山病院の理念が制定され、連帯感が生まれた。



開院以来ずっと実施されている朝礼。
当時は玄関口ビーで毎朝8時50分から院長が話をした。
全職員による院訓の唱和も当時から行われている。

草創

どうしたら良い老人医療を実践できるのか?
老人病院としての先駆的な取り組みが始まる

1979年6月11日、職員たちが西円山病院に初出勤した。直ちに院長・加藤隆正が辞令を交付。草創期の渓仁会を担つていく62名だった。

札幌市中央区円山西町。開院にあたって候補地はいくつかあったが、環境が良く将来性がある場所として、この地が選ばれた。

遡ること6年、老人福祉法が改正され、老人医療の無料化が始まっていた。「福祉元年」と呼ばれた時代である。しかし途端にオイルショックが日本経済を根底からゆさぶった。老人医療費無料化の数年後には医療費高騰が社会問題になっていた。

医療の荒廃が叫ばれていた。老人病院は暗く、陰惨なイメージ

[1979年～1984年]

というものが社会一般の風評であり、老人病院は決して社会から歓迎される存在ではなかった。そのような社会情勢のなかで、老人専門病院である西円山病院が開院した。

7月1日の開院日、西円山病院に初めての患者さまが訪れた。1カ月後、146床は満床になった。市内在住、平均年齢75歳、広範囲に褥瘡や拘縮があり、家庭や施設でも介護できない患者さまが多かった。「当院では絶対にこんなものはつくらない」。加藤院長はそう決意し、職員にも徹底を図った。患者や家族によろこばれる病院にしたい、日本一の老人病院にしたい。患者さま中心の良い医療の実践は、今はあたり前のことでも、それまでの老人病院では考えられないことだった。

81年、社会福祉法人南静会設立。翌年、社会福祉法人南静会が経営主体の特別養護老人ホーム西円山敬樹園を開設した。

- 1979
昭和54年**
- 西円山病院開院、院長に故加藤隆正就任
 - 西円山病院正式開院（7月1日）
 - 歯科診療開始（8月）
 - 看護会議発足（院長、事務局長、栄養士、付添リーダー、MSWなどが患者さまの日常生活について検討）（9月）
 - 職員親睦団体「むつみ会」発足（9月）
 - 職員公募による院訓制定（10月）

- 1980
昭和55年**
- 患者さまの誕生会始まる（1月）
 - 付添婦教育開始（婦長がプログラムを作成）
 - きれいな環境をめざし山の斜面等の病院周りに院長自ら率先して植樹（4月）

- 1981
昭和56年**
- 保育室（院内の個室2室を利用）開設（6月）
 - 院長による初の院内講演会（6月）
 - 第2期工事中央棟完成（8月）
 - 眼科診療開始（9月）
 - 院内研修会「老人患者の口腔ケア」（12月）
 - 道警音楽隊による入院患者慰問（12月）

- 1982
昭和57年**
- 婦人科診療開始（2月）
 - 業務改善提案制度スタート（3月）
 - 「患者介助の手引き」作成（6月）
 - 「口腔ケア健康手帳」作成（7月）
 - 社会福祉法人南静会設立（12月）

- 1983
昭和58年**
- 付添婦教育に茶道を導入（4月）
 - CTスキャナーを導入（10月）
 - 社会福祉法人南静会 西円山敬樹園開設（4月）

- 1984
昭和59年**
- 老人保健法施行（老人医療費支給制度の廃止、老人医療費の有料化）
 - 特例許可老人病院となる（4月）
 - 「敬老の日」職員全員で祝う（9月）
 - 定山渓病院と連携を始める（定山渓病院の開院は1981年5月）



1987年に完成した手稲渓仁会病院。
患者主体の医療に徹するという理念を掲げて開院。最新鋭の医療機器と優秀なスタッフを揃えた高機能総合病院としての発展に期待が高まった。



院内研修会。創業以来今日まで、継続的な教育・研修を行い、専門的な知識・技術の習熟、チーム力の強化、接遇力の向上など、さまざまに取り組んでいる。

定山渓病院を統括。 手稲渓仁会病院スタート。



1988年、札幌市立高等看護学院老人看護学実習の受け入れを実施。老人看護のあり方や看護活動をともに考えることを目的とした。

1989年7月、西円山病院が開院10周年を迎えた恩返しとして「高齢化社会を考えるシンポジウム」を後援。600名を超える人々の参加を得た。



[1985年～1989年]

福祉的な活動を多く導入 施設とサービスの両面から体制づくりを始める

80年代の半ば、日本の病院市場は典型的な供給過多にあった。「中小病院の経営は不安定、将来は淘汰されるだろう」。そんな声がささやかれる中、加藤院長はある取引先からの要請で、定山渓病院の経営を任せられることになった。

同病院の再建にあたって力を入れたのは、職員の研修だった。それまで患者さま本位の医療がなされていなかったことを大きな問題として掲げ、職員の意識改革に取り組んだ。85年、西円山病院と定山渓病院を統括し、医療法人渓仁会へと改組した。

85年は、西円山病院が新棟建設に着手した時でもある。老人医療の抱えている現実的な問題をどうしたら世間一般の皆

さまに理解していただき、信頼されながら解決に導いていくのか。そのためには受け入れられる条件整備が必要と考え、施設とサービス両面の体制づくりが始まった。

新棟の開棟にともない、院内への新しい息吹として福祉的な活動を多く導入した。老人介護研究、医療福祉研究、ボランティア事務、レクリエーションなどのグループを設け、患者さまに対する生涯学習へのアプローチ、地域社会に向けてのサービス活動に取り組み始めた。今現在も活躍を続けているボランティアグループ「銀の舟」が発会したのはちょうどこの頃である。

また87年、介護の質を高めるために「在宅療養者家族の会」を発足、89年には看護職の立場から老人看護の向上をめざし、総合的な研修研究を行う「北海道老人看護研究会」(会長・西円山病院看護部長)を全国に先駆けて誕生させた。

1985 昭和60年	<ul style="list-style-type: none"> ◎第一次改正医療法施行(地域医療計画による病床数の総量規制スタート) ●医療法人渓仁会に改組、理事長に加藤隆正就任(1月) ●西円山病院訪問看護開始(4月) ●西円山病院ボランティア「銀の舟」発足(11月)
---------------	--

1986 昭和61年	<ul style="list-style-type: none"> ◎老人保健法改正、老人保健施設創設 ●医療法人渓仁会の初の入社式(4月) ●西円山病院新棟完成(5月)病床数942床、作業療法科・言語療法科を新設 ●シルバー教室開講(7月) ●広報紙「健康なま」創刊(7月)
---------------	--

1987 昭和62年	<ul style="list-style-type: none"> ●老人介護スクール開講(9月) (道内の病院では初の試み) ●西円山病院医療福祉部門独立(12月)
1988 昭和63年	<ul style="list-style-type: none"> ◎老人保健施設運営開始 ●リハビリ施設基準取得(5月) ●「在宅療養者家族の会」発足 ●斎藤十朗厚生大臣が西円山病院来院 ●渓仁会マーク制定 ●手稲渓仁会病院開院(12月) ●定山渓病院で在宅訪問活動を実施 ●西円山病院で札幌市立高等看護学院の

1989 平成元年	<ul style="list-style-type: none"> 実習生受け入れ(6月) ●老人の専門医療を考える会シンポジウム開催(7月) ●手稲渓仁会病院が救急病院指定(7月) ●老人保健施設開設準備室開設(9月) ●3病院合同による初の「合同研究発表会」開催(11月)
--------------	--



1997年4月、いつでも、
どんな病気でも、どんなに重症
でもあらゆる救急患者を365日24時間診療できる
よう、手稲渓仁会病院に救急部新設。



1991年、高齢者自身の生の声を聴く機会をつくるため「老年の主張コンクール」を開催。第1回目の開催に、99名から111通の作品が集まつた。
(以降2002年まで開催)



1990年、西円山病院「患者家族の会」設立。入院患者様すべてのご家族と西円山病院とのコミュニケーションを重視し、両者間の連携と相互理解を大切にする病院づくりをめざしました。

すべての社会的なニーズに 対応するという使命感。



定山渓病院は1996年、
西円山病院は1997年に療養型病床群に完全移行。生活の場として広々とした病室の設備をととのえ、できるだけ家庭の雰囲気に近づけるように工夫した。

1994年12月、西円山病院に札幌初の院内喫茶室が誕生。室内にクラシックやジャズを流し、コーヒーの香りを大切に、町の喫茶店に近い雰囲気づくりを目指した。

拡大

[1990年～1999年]

「いつでも」「誰でも」「どこでも」を実行 保健・医療・福祉の総合事業体へと大きく成長

地域、社会構造の変化にともない、それまでとは異なる医療サポートの必要性が高まっていた。社会福祉の総合化ということが言われるようになり、それは医療や保健との関連を抜きにしては考えられない。渓仁会グループは保健と医療と福祉のトータルなサポートを一つの大きな社会サービスと捉え、いかにして網の目を細かく大きくするかをテーマに据えた。

1993年、渓仁会グループは在宅ケア関連事業を展開した。医療と福祉のネットワーク、コーディネートの専門性は不可欠。老人問題にしても、在宅、病院、福祉施設、民間シルバー産業、デイケアやデイサービス、ショートステイやナイトケアなど、一人ひとり

の利用者の適性を考えなければならない。渓仁会グループはそういった社会資源の提供に努めた。

90年代初め、一般企業では「社会的責任」という言葉が使われるようになっていた。企業が社会の一員としてどのような行動をとるべきかを問うという考え方である。私たちが担う医療にこの言葉を当てはめたとき、自分たちは何をしなければならないのか。当時、加藤理事長はこう述べている。「いつでも診ることができますという態勢、どんな病気やケガでも診ることができます、当院でできなければすぐに他の病院を紹介します、というプロとしての深い認識、そして病院で診ることができなければどこへでも往診できます、という機動性のある動き。これらによって、いかに安心していただくことができるか。この姿勢こそが、医療としての社会的責任たりうるところ」

1990 平成2年	<ul style="list-style-type: none"> ●円山クリニック開設(1月) ●西円山病院患者家族の会設立(12月) ●手稲渓仁会病院看護部が手稲高校の生徒を招いて「ふれあい看護体験」始まる
1992 平成4年	●西円山病院で献血運動始まる
1993 平成5年	◎第二次改正医療法施行(特定機能病院や療養型病床群を制度化) ●はまなす訪問看護ステーション開設
1994 平成6年	●西円山病院老人デイケア施設基準認定 ●西円山敬樹園ホームヘルパーステーション事業開始(10月)

1995 平成7年	<ul style="list-style-type: none"> ●訪問看護ステーション円山開設(7月) ●コミュニティホーム白石ホームヘルパーステーション事業開始(10月) ●西円山病院NCMシステム構築
1996 平成8年	<ul style="list-style-type: none"> ●カームヒル西円山開設・西円山敬樹園デイサービスセンター開設(4月) ●訪問看護ステーション本郷開設(5月) ●定山渓病院が終末期医療に取組開始 ●定山渓病院老人デイケア施設基準認定
1997 平成9年	<ul style="list-style-type: none"> ●手稲渓仁会病院に救急部新設(4月) ●(株)ハーティサポート設立

1998 平成10年	◎第三次改正医療法施行
	<ul style="list-style-type: none"> ●コミュニティホーム八雲開設(4月) ●(株)ソーシャル設立(6月)
	●定山渓病院が病院機能評価長期療養種別において日本で第1号の認定
1999 平成11年	<ul style="list-style-type: none"> ●デイサービスセンターすまいる開設(4月) ●ホームヘルパーステーションすまいる事業開始(4月) ●訪問看護ステーションおおしま開設(宮城県気仙沼市)(5月) ●あおばデイサービスセンター開設(12月) ●定山渓病院が抑制廃止宣言(7月)

挑戦

国際的基準で「質」をチェック。 めざすものは“最良”的サービス。

手稲渓仁会病院は長期的な人材育成にも取り組んだ。厚生労働省の臨床研修指定病院として、2001年から米国ピッバーグ大学のプログラムを導入。「全国から医師が集まつくる病院」として有名になった。

コミュニティホーム美唄は、雪を貯雪槽に堆積し、雪から生じる冷風と融雪による冷水の2つをエネルギーとして活用する雪冷房方式を採用。福祉施設としては道内初。第7回新エネ大賞「新エネルギー財団会長賞」受賞。

2001年度、厚生労働省の「ドクターヘリ導入促進事業」スタート。道内での本格導入を検討しようと、手稲渓仁会病院が基地病院となり「北海道ドクターヘリ運航調整研究会」が2002年2月に立ち上がった。



2001年11月、定山渓病院看護部と経営管理部が中心となり、「第3回全国抑制廃止研究大会」開催。定山渓病院の中川翼院長が大会長を務めた。

[2000年～2003年]

何が良い病院か？ 何が良いサービスか？ ISO認証登録への取り組みを開始する

2000年、高齢化率17.2%。医療保険制度のみならず、年金や福祉のあり方も見直しされる時期に入っていた。その一つが介護保険法の導入だった。要介護度認定という新しい基準が設けられ、利用者は医療やサービスそのものの質で病院を選択する時代になった。ほんとうの意味の「品質」を評価してもらえることは、満足度とサービスの質の向上をめざしてきた渓仁会グループにとって、自らを振り返る絶好の機会になった。

何が良い病院なのか。何が良いサービスなのか。自分たちは最良のサービスだと思っていても、ほかの人たちはどう評価しているのだろうか。サービスの質をチェックする意味で、渓仁

会グループは国際規格であるISO9001(品質管理)、ISO14001(環境管理)の認証登録への取り組みを開始した。

00年11月の西円山病院を皮切りに、01年1月にコミュニティホーム白石、定山渓病院、同2月に円山クリニック、手稲渓仁会病院、同3月に西円山敬樹園、カームヒル西円山と、3病院3施設が次々と審査登録を受けた。03年には渓仁会グループ統括本部も審査登録を受けた。複数法人の本部組織が単独で審査登録を受けたのは、全国的にもめずらしいことだった。

この頃、急性期病院である手稲渓仁会病院はドクターヘリ事業にも積極的に取り組んでいた。背景には地域への貢献という思いがあった。石狩や後志といった地域からやってくる患者さまも少なくないのに、救急時の対応に限界があるというジレンマ。正式運航となるまでに、自主的な試験運航は300回を超えた。

2000
平成12年

- 介護保険法施行
- 抑制廃止運営基準実施
- 北海道抑制廃止研究会が活動開始（会長は定山渓病院中川翼院長）
- 円山渓仁会デイサービスセンター開設（1月）
- 気仙沼市在宅介護支援センターおおしま委託業務開始（2月）
- コミュニティホーム美唄開設（4月）
- 居宅介護支援事業所が事業開始（西円山敬樹園、コミュニティホーム白石、やくも、すまいる）（4月）
- 手稲渓仁会クリニック開院（5月）
- 西円山病院NSTチーム立ち上げ（6月）

2001
平成13年

- デイサービスセンターおおしま開設（9月）
- グループホーム白石の郷開設（10月）
- 身体拘束ゼロ作戦推進会議を発足（会長は定山渓病院中川翼院長）（10月）
- デイサービスセンター白石の郷開設（11月）
- 第四次改正医療法施行（病床区分見直し、卒後研修必修化、医療情報提供推進）
- ホームページで情報提供開始（10月）

2002
平成14年

- 円山クリニックが渓仁会円山クリニックに名称変更（4月）
- ドクターヘリの試験運航開始（8月）

2003
平成15年

- 手稲渓仁会病院に隣接する保育園で病児保育開始（札幌市内では3カ所目）
- グループホーム西円山の丘開設（7月）
- 手稲渓仁会デイサービス開設（4月）
- 豊平渓仁会デイサービスおよび新琴似渓仁会デイサービス開設（8月）
- 渓仁会訪問リハビリテーションセンター開設（4月）
- 訪問看護ステーションあおば開設（4月）
- 青葉ハーティケアセンター開設（4月）



創立25周年
記念の来場者参加型健康イベント。
テーマは「心を支える、暮らしを支える、
私たちの地域医療」。直木賞作家の
五木寛之さんを招き、心の健康をテー
マとした講演会も開催。



唯一の
道外施設「おおしま
ハーティケアセンター」(宮城県気仙沼市)が、
2005年8月リニューアルオープン。県内初の高齢
者小規模多機能施設として在宅介護にかかる
多様なサービスを複合的に提供。

医療と福祉の変革期。 新しい渓仁会グループの始まり。

医療機関におけるボラ
ンティアの草分け的存在、「銀の舟」発足20
周年記念式典。1985
年の発足当時は25
人、この時は登録会
員152人を数える道
内最大の病院ボ
ランティア組織に
発展。

変 革

社会に存在する意義を強く認識しながら
社会・経済・環境を見据えた「第二の創業」

2000年代の初め、バブル崩壊の余波が渓仁会グループを襲った。平成不況を代表する大手金融、日本長期信用銀行の経営破綻による連鎖反応。このことは渓仁会グループにも少なからず影響を与えた。01年からの数年はその立て直しの時期でもあった。そして04年、渓仁会グループに新理事長が就任する。札幌医科大学の前学長・秋野豊明である。

25年前、西円山病院という一老人病院から始まった渓仁会グループは、いまや北海道を代表する大規模医療機関に成長していた。秋野理事長は経営の立て直しにあたり、それまでのオーナー経営から企業体の組織経営へと、経営手法を転換。

2004
平成16年

- 新理事長に秋野豊明就任(4月)
- コンプライアンスマニュアル(法令・倫理遵守)の全職員配布を実施
- 渓仁会グループが環境マネジメントシステム(ISO14001)審査登録
- 西円山病院・定山渓病院でミックスペーパーリサイクル(廃棄していたコピー用紙等を古紙原料に再生させる取り組み)開始
- 西円山病院経営管理部内に「西円山病院接遇委員会」設置(4月)
- 個人情報保護への取組開始(7月)
- コミュニティホーム白石ショートステイセンター開設(9月)

2005
平成17年

- 西円山病院・定山渓病院にて中学生のボランティア活動を実施
- ◎**医療制度改革大綱決定**
- (株)ハーティワークス設立(1月)
- 創立25周年記念イベント「健康フォーラム」開催(3月26、27日)
- 手稲渓仁会病院新型救命救急センターとして正式認可(3月)
- 手稲渓仁会病院救命救急センターを基地病院として「北海道ドクターヘリ」の正式運航が開始(4月)
- ヘルパーステーションあおば事業開始(4月)

2005年4月から本格運航となったドクターヘリ。
事業スタートにあたって3月31日に記念式典を開催しテープカット。北海道厚生局長、北海道知事、医師会会長ら多数の関係者が出席した。



[2004年～2005年]

渓仁会グループがこれまで歩んできた25年にわたる軌跡をさらに確かなものにするため、すべての職員が自らの使命を自覚し、共有する取り組みを開始した。「安心感と満足の提供」、「信頼の確立」、「プロフェッショナルマインドの追求」、「変革の精神」。この4つの理念を職員一人ひとりが継承し、保健・医療・福祉の向上に貢献していくのだという方向を示した。

渓仁会グループの第二の創業がこうして始まった。

時はまさに医療制度改革の真っただ中だった。社会の高齢化はさらに進み、国民医療費の抑制に向けた医療制度改革が進められていた。渓仁会グループは、制度改革による環境の変化を敏感に受けとめ、ビジョンを明確にし、将来の展望を見据えながら前に進み続けることを決意した。変革の時期だからこそ、常に変革の精神を忘れず、改革し続けることを誓い合った。



2006年CSRレポート。社会的責任を遂行するための事業理念、グループのすべての職員が守るべき行動指針として制定したサービス憲章など、渓仁会グループの社会的役割を明らかにしている。

2007年以降、社会福祉法人南静会では「こども参観日」を実施。職員の子どもを施設に招き、仕事と子育てが両立可能な職場づくりをめざしている。

2007年、渓仁会法人本部が主幹事となり開催した日本医療バランス・スコアカード研究学会・第5回学術総会。医療の質と経営の質の向上をめざした学会にも力を入れる。

さらなる未来へ。 使命を果たして社会に貢献する。



心豊かな毎日のために、各病院や施設では一年を通じてさまざまに趣向を凝らした催事を行っている。写真は2006年から開催している西円山病院月例ロビーコンサート。

2008年よりおたるドリームビーチ清掃活動を開始。2009年6月には渓仁会グループ各施設の職員とその家族161名と、ボランティア学生38名が参加。



宣
言

[2006年～future]

医療機関では国内初「CSRレポート」発行 社会的責任を果たす誠実な組織風土づくり

渓仁会グループは、「医療・福祉分野は日々の業務そのものが社会的責任(CSR)である」という認識に立っている。2006年にはCSR経営を宣言し、めざす理念や活動の方向性、内容を広く内外に公開する「CSRレポート」の発行を開始した。

現在、多くの企業が「社会的責任経営は企業の責務である」としてCSRレポートを発行するようになっているが、保健・医療・福祉の分野では渓仁会グループが国内初の試みだった。このことは医療界のみならず、産業界など広く各界から注目を浴びることとなった。

高齢社会が著しく進展するなか、医療・福祉サービスを担う

ことは重要な社会機能である。社会からの要請に誠実に応えていくことこそがCSRの本質であり、その基本は患者さま、利用者さま、ご家族の皆さま、地域や取引先などの関係の皆さまとの「信頼関係の確立」であると、渓仁会グループは考えている。

09年、渓仁会グループは創業30周年の節目を迎えた。30年の歴史を経て、現在では4法人、約60の事業所を擁し、職員数約3600名の、北海道における最大の保健・医療・福祉グループとなった。現代の社会システムが「官から民へ」の流れを強めるなか、渓仁会グループは公益性を担う民間事業体として認識され、北海道の地域医療や地域福祉への期待感も大きくなっている。渓仁会グループの各病院、施設、事業所は、その大きな役割を担い、それぞれが持つ特徴を活かして、社会のニーズに応えるさまざまな取り組みを今日も続けている。

2006 ◎改正介護保険法施行

- 渓仁会グループCSRレポート発刊開始
- 社会福祉法人南静会プライバシーマーク取得
- 保健事業部設置(1月)、市内5カ所で介護予防センター事業開始(4月)、白石区第1地域包括支援センター事業開始(4月)

2007 ◎第五次改正医療法施行

- 手稲渓仁会病院救命救急センター棟オープン
- プライバシーマーク取得(医療法人渓仁会・(株)ソーシャル・(株)ハーティワーカーズ)
- 西円山病院院内保育所「西円山ピッコロ保育園」新築
- 西円山病院の献血運動(92年から実施)が

日本赤十字社の献血功労表彰

- 西円山病院が病院機能評価認定
- 渓仁会琴似訪問看護ステーション・ケアセンターこころ・コミュニティホーム岩内開設(4月)
- 地域密着型介護老人福祉施設菊水こまちの郷、小規模多機能型居宅介護菊水こまちの郷開設(7月)
- 医学教育に関する専門的な技術を病院内で習得できるプログラム「手稲→ハワイ医学教育フェローシップ」を導入

2008 平成20年

- ◎後期高齢者医療制度スタート
- ◎医療機能強化型老健施設の創設
- 手稲渓仁会病院小児NIVセンター開設(4月)

- 西円山病院で初の「看護師就業サポート研修会」開催
- 手稲渓仁会病院が北海道洞爺湖サミットの救急医療基幹病院に指定

- グループ職員によるおたるドリームビーチ清掃活動、リングブル收集活動開始
- 岩内町地域包括支援センター事業開始(4月)
- 居宅介護支援事業所ケアプランセンターこころ事業開始(4月)

2009 平成21年

- 社会福祉法人南静会が社会福祉法人渓仁会に改称(4月)
- 手稲家庭医療クリニック開院(10月)
- 渓仁会健康保険組合設立(10月)
- 西円山病院が札幌西円山病院に改称(11月)

誠実な組織のもとで最良のサービスを。

わたしたち渓仁会グループは、1979年の創業以来、地域の皆さまの「保健・医療・福祉」をサポートしてまいりました。

現在は札幌市を中心に、医療法人、社会福祉法人、福祉サービス会社など4法人を運営し、

「保健・医療・福祉」を相互に連携させながら、今求められる最良のサービスを提供しています。

渓仁会グループの輪 (2009年11月1日現在)

[保健]

健康のチェックと病気の早期発見、健康管理、
予防に関するサービスを提供しています。

- 総合健診施設 渓仁会円山クリニック



保健

[治療とケア]

最新医療技術と機器を備え、365日24時間の
救急受け入れ体制で総合医療を提供しています。

手稻渓仁会 医療センター

- 総合医療 手稻渓仁会病院
- 手稻渓仁会クリニック
- 手稻家庭医療クリニック



治療とケア

大きな安心

[介護・社会復帰・生活支援]

住み慣れた家庭や地域で生活できるよう、
介護・福祉のサービスを提供しています。

- 介護老人福祉施設 西円山敬樹園
- 地域密着型介護老人福祉施設 菊水こまちの郷
- 介護老人保健施設 コミュニティホーム白石
- 介護老人保健施設 コミュニティホーム八雲
- 介護老人保健施設 コミュニティホーム美唄
- 介護老人保健施設 コミュニティホーム岩内

- 軽費老人ホーム カームヒル西円山
- グループホーム白石の郷
- グループホーム西円山の丘
- 西円山敬樹園ショートステイセンター
- おおしまショートステイセンター
- コムニティホーム白石ショートステイセンター

介護
社会復帰
生活支援



[療養とケア]

長期療養が必要な方に、看護・介護・リハビリテーションを中心とした医療サービスを提供しています。

- 療養病床 札幌西円山病院
- 療養病床 定山渓病院



[福祉用具]

福祉用具の貸与・販売、施設関連の備品の相談に応じます。ご家族で介護を必要とされる方が快適な生活を過ごせるようサポートしています。

- 株式会社ハーティワークス

[介護予防・在宅支援・生活支援]

すべての高齢者を対象に自立した日常生活を支援。病気や障害等で介護が必要になった時、専門のスタッフが日常生活をサポートしています。

- 札幌市手稲区介護予防センターまえだ
- 手稲渓仁会デイサービス
- 新琴似渓仁会デイサービス
- 円山渓仁会デイサービス
- 豊平渓仁会デイサービス
- 西円山敬樹園デイサービスセンター
- デイサービスセンター白石の郷
- あおばデイサービスセンター
- デイサービスセンターすまいる
- デイサービスセンターおおしま
- 小規模多機能型居宅介護 菊水こまちの郷
- 清仁会在宅ケアセンター
- 西円山病院在宅ケアセンター
- 定山渓病院在宅ケアセンター
- 指定居宅介護支援事業所
　　コミュニケーションホーム白石
- 指定居宅介護支援事業所
　　西円山敬樹園
- 指定居宅介護支援事業所
　　あおば
- 指定居宅介護支援事業所すまいる
- 指定居宅介護支援事業所やくも
- おおしまハーティケアセンター
- 指定居宅介護支援事業所
　　ケアプランセンターこころ
- はななす訪問看護ステーション
- 訪問看護ステーション本郷
- 訪問看護ステーションあおば
- 訪問看護ステーションおおしま
- 西円山敬樹園
　　ホームヘルパーステーション
- コミュニティホーム白石
　　ホームヘルパーステーション
- ホームヘルパーステーションすまいる
- ホームヘルパーステーションおおしま
- ケアセンターこころ
- ソーシャルヘルパーサービス白石
- ソーシャルヘルパーサービス中央
- ソーシャルヘルパーサービス西